ASAHI GAWASOU DAYORI

小学生が利用者と触れ合い、車いすの介助方法などを学んだ「福祉体験バス」（8面に関連記事）

旭川荘だより

vol. 230

2017.09.01 発行

発行／社会福祉法人 旭川荘
〒703-8555 岡山市北区祇園866
TEL 086-275-0131 FAX 086-275-5640
http://www.asahigawasou.or.jp

CONTENTS

P4-5 南愛媛病院 吃音相談開始2年
P6 夏まつり旭川荘
P7 えいごde福祉 関係機関の名称（2）
P8 スロットマシンを寄贈
さくら児童館でドリームマップ製作

TURNフェスで「高本敦基×旭川荘」トークイベント（2、3面に関連記事）

異質な連携で地域の活性化を

理事長　末光　茂

7月27日、恒例の「夏まつり旭川荘」が、天候にも恵まれ盛大に開催されました。5000人の来場者だけでなく、旭川の土手で花火を楽しむ人も数多く見られました。旭川荘がいかに多方面の方々に支えられているか実感する機会です。

逆にふだん身近で大切な存在に気づかず、見過ごしていることも少なくありません。

最近、旭川荘に隣接する「備前国総社宮」を、ある縁で身近に感じさせていただきました。

「トレイルラン」という山々を何時間も、時には何日間もかけて走るスポーツが若者の間で人気を高めています。岡山にも「羅針盤」という愛好グループが活動していて、その代表2人が総社宮の武部一宏宮司さんと共に訪ねて来ました。

5月14日（日）総社宮をスタートし、龍ノ口山から四御神方面の山を駆け上り駆け下りる12キロと5キロの2つのコースで「トレイルラン」を行うので協力を願いたいとのあいさつでした。

35年間マラソンにのめり込んできた私は、喜んで協力というより、128人のランナーのひとりとして参加させていただくことにしました。

総社宮は、平安時代に備前国の128カ所の神社をまとめる役割で創建。昭和天皇が昭和13年（1938年）に行幸されたのを記念する立派な石碑が残っており、由緒正しさが伝わります。

戦後廃れつつあった総社宮を先代の宮司が再建し、往年の立派な本殿等が整備されつつあります。

その「総社宮」と「トレイルラン」という、全く異質なものが手を相携えてのイベントです。今回は予行演習で、来年2月4日に「備前国総社宮杯」の本大会が開催されるそうです。地元の一員として大会を盛りたて、歴史を再認識するとともに、地域の活性化にいささかでも寄与できればと願っています。

TURNフェスで高本さん＆旭川荘がトーク 新プロジェクト「オデカケ計画」紹介

アーティストが福祉施設に赴き、交流を重ねる中で生まれた表現などを発表する「TURNフェス」が8月18日から3日間、東京都美術館（東京都台東区上野公園）で開催されました。旭川荘は昨年度から、現代アート作家の高本敦基さん（真庭市在住）とともにTURNの交流プログラムに参加しており、3月の「フェス2」では利用者が絵を描いた傘を会場に展示しました（※旭川荘だより225号参照）。

今回の「フェス3」では、旭川荘アートギャラリー館長を務める出口隆一・旭川学園長と小幡篤志・企画広報室長が高本さんとともに初日のトークイベントに臨み、デイセンターあかしやを拠点に7月から試験的に始まった新たなプロジェクト「オデカケ計画」について報告しました。

高本さんは現在、デイあかしやとカレッジ旭川荘を定期的に訪れ、創作活動の支援を通して利用者と交流を続けています。「オデカケ計画」は法人全体に交流の輪を広げようと高本さんが発案。利用者が作る「顔」をモチーフにした小さな紙粘土作品を小箱や瓶に詰め、交流の手段として他施設へ巡回（＝お出かけ）させるという企画です。

「すごく単純なことからやりたい。
他施設が真似をしてくれたら面白い」と語る高本さん。
右はTURNコーディネーターの奥山理子さん

お出かけ先の交流の様子について語る小幡室長（左）と出口園長

トークの冒頭で高本さんは、利用者と職員を合わせると5000人近い旭川荘の規模に触れ、「僕が住む県北の町の人口は約5000人。『旭川荘×高本敦基』の交流といっても、『町VS1人のアーティスト』くらい規模の差がある」と表現。大きな組織の中で計画を展開するための方法として、協力者を集める「チーム作り」、活動内容を多くの人に分かりやすく伝える「情報ペーパー作り」を挙げ、「その先に5000人分の顔を作って、一堂に展示したい。作品を見る人にも旭川荘がいかに大きな法人なのか、分かってもらえるだろう」と構想を明かしました。

デイあかしやで作った作品は、7月下旬から8月始めにかけて、吉備ワークホームや旭川敬老園、旭川療育園、みどり学園、愛育寮の織工房を一巡。会場では、作品を手にした利用者の表情や各施設の日常風景に溶け込む「顔たち」を撮った写真をモニターに映しながら、トークを進めました。

作品を受け取った他施設の反応について、小幡室長は「普段、モノづくりに取り組む人たちは作品そのものの“顔”の面白さを理解し、パッケージにも興味を示していた。敬老園の利用者も作品を手に載せ『真心がこもっている』と喜ぶなど、とてもいい時間が過ごせた」と紹介。出口園長も「利用者のご家族も『オデカケ計画』や『TURNフェス』に関心を示してくださった。作品を見た職員から『5000人の顔作りに参加したい』という声も上がっている」と話すなど、計画がお出かけ先で好意的に受け止められている様子が伝えられました。

さらに今後の展開について、高本さんは「じわじわと」というキーワードを挙げながら「小さいこと、みんなができることからつながっていくと、何か大きなことができると思っている。交流から生まれる出会いや面白い発見を少しずつ足しながら、雪だるまみたいに大きくしていきたい」と発言。司会を担当したTURNコーディネーターの奥山理子さんが「施設の日常に負荷のかからないやり方で、他施設とつながっていく方法を模索している様子が伝わってきた。交流の経過を見守っていきたい」とまとめ、約40分に及んだイベントを終了しました。

➡トークを聴いた来場者から感想・メッセージをいただきました。

＊楽しい気持ちを大切に、何かを通してわくわくが共有できるような「オデカケ」ですね。
＊「じわじわと」の続きを楽しみにしています。（作品が）お菓子みたいにかわいい！飛んでいきそうな色と軽さがとても好きです。
＊オデカケセットの巡回。小さなうれしさが巡っていくようで、楽しい気分になりました。

特集 南愛媛病院「吃音相談」開始2年

当事者・岡部院長の寄り添う診察が好評 県外からも受診に

旭川荘南愛媛病院（愛媛県鬼北町永野市）が発音や言葉の明瞭さに困難を抱える人の悩みを聞く、全国でも珍しい「吃音（きつおん）相談」を開始して2年が経ちました。当事者でもある岡部健一院長（65歳）の対話的な診察が好評で、受診した人から「相談に来て気持ちが楽になった」「子どもの症状が軽くなった」と喜ばれています。同病院の取り組みと吃音当事者の声を紹介します。

親身になって当事者の話を聞く岡部院長（右）

吃音について

吃音とは「言葉に詰まる」「スムーズに発音できない」といった状態で、「こ、こ、こんにちは」と特定の音を連続して話したり、「こーーーんにちは」と音を伸ばしたりする症状。大半は幼児期に現れ成長とともに改善されますが、約1%の人は大人になってからも症状が残ります。吃音は、現在の法律で発達障害に分類されており、原因や治療法が解明されていません。

南愛媛病院の吃音相談

南愛媛病院の吃音相談を訪れた人は、平成27年8月から今年8月末までに40人。このうち33人が男性で、年齢は2歳から48歳で20歳未満が31人。岡部院長が専用ルームで時間をかけて彼らの生活上の困りごとなどを聞き取り、その人に合った診療をしています。

成長とともに改善が見込める幼児と小学生の場合、保護者へのアドバイスが中心で、子どもがリラックスして話せる雰囲気や、声が出るという体験をすることの重要さを伝えます。療育が必要な吃音症状の重い子どもには、言語聴覚士（ST）が絵カードを使った発語の訓練をしています。

発語の訓練に使う絵カード

一方、中高生と大人の場合、本人にとって発音の難しい言葉、例えば「ただ今から」を「これから」に言い換えてみるよう助言します。加えて、「認知行動療法」という自分の考え方や受け取り方の癖を改善するカウンセリングを行っており、吃音を無理に治すのではなく症状と上手く付き合うようアドバイスしています。

現在、吃音への関心の低さもあって障害者手帳取得のために診断書を書く医師は非常に少なく、岡部院長を頼って栃木や東京などから受診する人も。岡部院長は精神障害者保健福祉手帳（3級）を取得した30代の女性からお礼のメールが届いたことに触れ、「彼女が障害者枠の面接に自信を持って臨んでいることが嬉しい」と話しています。

自助団体の活動にも力

吃音当事者による自助団体「全国言友会（げんゆうかい）連絡協議会」。18年前に「愛媛言友会」立ち上げた岡部院長は、全国言友会の理事として吃音に関する話題を言友会の機関紙や地方紙に寄稿し、医師やSTらを対象に全国各地で講演を行っています。そして受診に訪れた人にも「同じ悩みを持つ仲間と体験を分かち合うことが問題の克服につながる」と例会への参加を勧めています。

岡部院長

岡部院長インタビュー

―吃音の当事者でもある岡部院長に聞きました。

Q 吃音相談を開始したきっかけは？

A 当時、全国の医療機関の中で専門相談を行っていたのは、私の知る限り埼玉、神奈川、福岡の計3カ所だけ（※注）。幸い当院にはSTが4人もいて条件が整っていたので、彼らの協力を得てスタートしました。

Q ご自身の吃音の体験を聞かせてください

A 小学5年生の頃、号令かけるときに言葉に詰まったことから吃音を意識するようになりました。自己紹介や電話で「話せなかったらどうしよう」という不安に駆られ、できればその場から逃げたかったほどです。催眠療法や民間矯正所での訓練、針治療に頼ったこともありますが、効果はありませんでした。「変えられないことは受け入れる」と悟り、できるだけ話しやすい言葉を使うよう心がけたところ、40代半ばには吃音で困ることはなくなりました。

Q 吃音当事者にとっての問題は？

A 吃音当事者の中には、子どもの頃にからかわれたことで黙ってしまい、誰にも打ち明けずに吃音を隠している人が大勢います。人前で話すのが嫌で対人恐怖症となり、引きこもってしまうという二次障害も大きな問題です。当事者が話しやすい環境で生活するには、周囲の正しい理解が欠かせません。

Q 診療だけでなく、講演活動にも力を入れていますね。

A 他県まで受診に行かずに済むよう、各県に1カ所は公立病院で吃音診療ができるようになるのが理想です。受診できずに悩んでいる人のためにも、診療体制の普及に尽力したいです。

※注：現在は愛媛、長野を加え計5カ所で実施

受診者インタビュー

―吃音相談を受診した、愛媛言友会会員で30代の女性保育士の方に尋ねました。

Q 吃音相談を受診するまでは？

A 小学2年生の時に授業で指名され、言葉に詰まったことがトラウマに。高校卒業前に県内の病院に行き、話す訓練をしましたが治りませんでした。社会人になって訪れた病院では、医師やSTから「そんなことで受診するな」などと言われ途方に暮れていました。

保育園の朝礼で上手く報告できず、上司に「どれだけあがり症なの？」とからかわれたことも。卒園式では園児の名前を呼べなかったことを同僚に非難され、体調を崩して退職。求職中にインターネットで病院を探していたら岡部先生につながり、予約しました。

Q 吃音相談を受診していかがでしたか？

A 岡部先生をはじめスタッフの皆さんが親切で、診察に同席した医療秘書さんも私が言葉に詰まっても気にすることなく受け入れてくれました。相談する場所があるというのは、とても心強いです。吃音があることを恥ずかしいと思わなくなり、以前よりも症状が軽くなったような気がします。

Q 今後の目標を聞かせてください

A 今は別の保育園に再就職し、STと協力して話すのが苦手な子どもの療育を担当しています。私の吃音経験が、少しでもお役に立てば幸いです。

旭川荘南愛媛病院

吃音相談は、毎週水・木曜日の午後診察で予約制です。
お問合せは下記までお願いします。

TEL：0895－45－1101　FAX：0895－45－3326
MAIL：minami-ehime@asahigawasou.or.jp

祇園で夏まつり旭川荘
利用者ら夜店や盆踊りでボランティアと交流

祇園地区恒例の夏イベント「第37回夏まつり旭川荘」を7月27日に開催しました。荘内の利用者や家族をはじめ、ボランティアや地域の人たち約5000人が夏の夜を堪能しました。

わかくさ学園のうらじゃに学生も飛び入り参加

まつりはわかくさ学園のうらじゃ踊りでスタート。県警音楽隊のブラスバンドに続き、地元グループが和太鼓や管楽器、獅子舞などを披露。やぐらの周りでは地域の踊り連と一緒に車いす利用者やボランティアの皆さんも輪に加わり、踊りを楽しみました。

夜空を彩る打ち上げ花火

また、会場周辺には荘内施設や家族会、地域の人たちが出店する夜店が並び、焼きそばやたこ焼き、フランクフルトなどを販売。かき氷やくじびきの店には早くから行列ができ、子どもたちの人気を集めていました。

フィナーレの打ち上げ花火は、昨年より120発増えて720発。大きな音とともに夜空に大輪の花が咲き、「きれい」「すごい」といった歓声が上がりました。

光るおもちゃが夜店の雰囲気を盛り上げます

たこ焼きの店は大人気

やぐらを囲み、盆踊りで触れ合う参加者

ボランティアのサポートでまつりを楽しみました

岡山操山中から手づくりうちわの寄贈

県立岡山操山中学校(岡山市中区浜)の生徒の皆さんから7月24日、「夏まつり旭川荘で使ってください」と手作りのうちわを353枚いただきました。

うちわの寄贈は平成26年に始まり、今年で4回目。同校の課外活動「SOZAN国際塾」のメンバーが全校生徒に協力を呼びかけ、1人1点ずつ製作しました。金魚やスイカ、かき氷などの涼しげなイラストが目を引きます。

この日は引率の赤木真一郎教諭ら4人が来荘。ボランティアチームの生徒2人が夏まつり旭川荘実行委員会の小林由典行事委員長らにうちわを手渡しました。小林委員長は「毎年、素敵なうちわをありがとうございます。利用者の方もきっと喜んでくれると思います」とお礼を述べました。

手づくりのうちわを手渡す生徒代表(左2人)

えいごde福祉 ～英訳法律文から学ぶ用語と表現～ 9

関係機関の名称（2）

関係機関の名称（2）では現場の機関の名称を集めてみました。

現場の機関は基本的にofficeまたはcenterが使われているようです。officeはご存じの通り事務所・事業所という意味。代表的な使い方としては郵便局post officeがあります。centerは空間的・場所的な中心という意味と活動の中心という意味があります。この原稿を書いている8月半ばは甲子園球場で高校野球が行われていますが、外野手のポジションであるセンターは前者の意味です。そういえば、某アイドルグループにもセンターポジションがありますね。サービス機関としての「～センター」は後者の意味です。

身体障害者更生相談所　recovery consultation office for persons with physical disabilities
知的障害者更生相談所　recovery consultation office for persons with intellectual disabilities
精神保健福祉センター　mental health and welfare center
児童相談所　child guidance center
福祉事務所　welfare office
保健所　health care center
発達障害者支援センター　support center for persons with developmental disabilities
公共職業安定所　public employment security office

（広報委員・総合研究所主任研究員　後藤祐之）

リレーコラム

時間を大切に…

年齢を重ねるにつれ「1年が過ぎるのが早いなー」と思ったことありませんか。これはどうも当たっているようです。

哲学者ポール・ジャネが発案した「ジャネーの法則」によると、生涯のある時期における時間の心理的長さは年齢の逆数に比例する（年齢に反比例する）とのこと。

分かりやすく言うと、6歳の我が息子が感じる1年の長さは1/ 6（年齢）＝0.16、42歳の私は1/42=0.023となり、42歳の私は息子の7倍の速さで過ぎていく計算ということになります。

2017年もすでに半分以上が過ぎました。月日が経つのは早いですね…。この半年でどれだけの事ができたでしょうか。愛育寮では、行事や日々の生活において、「少しでも何か変化をつけること」を意識しています。昨日のような今日、昨年のような今年だと、何も記憶には残らずあっという間に過ぎ去ってしまいます。新しい事にチャレンジすることで、生活の質を高めていけると思います。

支援者は利用者の貴重な時間を共有しています。どれだけ充実した時間を過ごし、よりよく生きることができるかは支援者に掛かっています。当たり前ですが、年齢に関係なく1日24時間は等しく与えられています。時間は大切にしたいものです。

（広報委員　和田倫明）

小学生福祉体験バス 親子ら15人が参加

高齢者が感じる見えにくさや、動きづらさを疑似体験

「第6回旭川荘小学生福祉体験バス」を8月22日に開催。親子ら15人（うち小学生8人）が参加し、共催の下電観光バスで来荘しました。

子どもたちは、知的障害のある人たちが働く織工房で利用者らから手ほどきを受け、結び織りやはた織りに初挑戦。竜ノ口寮では車いすの利用者と「ボッチャ」や「卓球バレー」を楽しみ、ゲームの後は車いす清掃のボランティアも行いました。

午後からは、バスに乗って厚生専門学院吉井川キャンパスへ。介護福祉学科の教員に車いすで坂道を移動する際の操作方法を教わったほか、特殊なメガネや鉛入りのサポーターを付けて歩き、高齢者の「見えにくい」「動きづらい」といった感覚を疑似体験しました。

両親と妹と参加した操南小学校4年の力石皓毅（りきいしこうき）君は「体に障害のある人も手芸や運動ができることがよく分かった。ボッチャでまた対戦したい」と話していました。

旭川荘ごよみ
SCHEDULE CALENDAR

9月

1日～11月24日	常設展（秋）	旭川荘アートギャラリー
2～10日	ちょっと見て旭川荘（黒井山グリーンパーク）	旭川荘関係施設
11～15日	敬老会	デイサービスセンター敬老園
16日	敬老の日記念行事	旭川敬老園
23日	ふれあい祭り	いんべ通園センター

10月

1日	かっこう花祭	かわかみ療護園
4日	キャンドルサービス	旭川荘厚生専門学院
6日	戴帽式	旭川荘厚生専門学院
7日	知的障害関係施設合同運動会	旭川学園・愛育寮・あかしや園・いづみ寮・あおば
18日	平成29年度第3回理事会	旭川荘
21日	せとうちふれあいまつり	せとうち旭川荘
	環境福祉フェア（結びの杜）	旭川荘
27日	平成29年度第2回評議員会	旭川荘
29日	西日本肢体不自由児施設ティーボール交歓大会	旭川療育園
	秋桜祭	竜ノ口寮

県遊技業協同組合青年部会より 遊技台寄贈

会員の手ほどきを受けてスロットに挑戦

岡山県遊技業協同組合の青年部会（岡山市北区青江）より7月31日、旭川荘療育・医療センターと真庭地域センターに遊技台（スロットマシン）を各3台ずつ、計6台寄贈していただきました。

療育・医療センターで行われた贈呈式では、同組合青年部会の金沢竜志部会長が「皆さんで楽しんでください」とあいさつ。両施設の代表者が「日中活動の選択肢が広がる」「余暇の充実が期待できる」と謝辞を述べ、旭川児童院の利用者が手づくりのモザイク画や真庭の木工製品を手渡しました。

遊技台はコインの誤飲などを防ぐためにレバー操作だけで作動するよう改良。利用者は金沢部会長らに教わりながらゲームに挑戦し、ゾロ目が出ると笑顔を見せていました。

夢の実現へ「ドリームマップ」製作 さくら児童館で小学生ら

講師（右から2人目）のアドバイスを受け、ドリームマップを仕上げる子どもたち

子どもたちが将来の仕事や夢の実現に向けてプランを描く「ドリームマップ」作りの体験会が7月24、25日の2日間、旭川荘のさくら児童館で開かれました。

同児童館を利用する牧石小学校の「牧石さくら児童クラブ」が、地域の教育支援に取り組む菅公学生服株式会社の学童保育向け体験プログラムに応募したもので、初日は同社の女性スタッフ6人が講師として来荘しました。

体験会には1年生から4年生の男女39人が参加。講師のアドバイスを受けながら、自分の性格や「好きなこと」「やってみたいこと」をシートに書き出した後、家族と撮った写真やちらしの切り抜きなどとともに画用紙に貼り合せて、それぞれのドリームマップを仕上げました。

2日目の最後に子どもたちが一人ずつ前に出て、マップを示しながら「世界で活躍するサッカー選手になる」「笑顔のいい先生になりたい」などの“かなえたい夢”を発表。友達からの拍手や講師の激励に笑顔を見せていました。

ドリームマップを見せながら夢について発表

編集後記

南愛媛病院の吃音相談（本紙4、5面）の取材で、私と同年代の当事者にお会いしました。その方は、当事者が集まる例会で「就職できました」と嬉しそうに報告。吃音のため学校や職場で辛い体験をされたようですが、今は生き生きと働いています。「吃音の経験が活かせたら！」。そう語る彼女の前向きな姿に刺激を受けました。

（広報委員　藤原講平）